

今後のニホンザルの保護・管理の検討方針について

1. 今後のニホンザルの保護・管理上の課題

今年度、改定予定の特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン（ニホンザル編）（以下「ガイドライン」という。）が、各自治体で理解され、適切な保護・管理が行われるために、改定した内容の普及を図る必要がある。

特に、今回の改定で新たに提示した要配慮地域や変更した捕獲手法の選択については、都府県等への意見照会で質問や意見が多かったことから、内容や考え方の普及を図る必要があると思われる。

また、特定計画を策定していない都府県や市町村に向けて普及を図ることも課題である。

2. これまで実施した普及の取組

これまでに実施してきたニホンザルの保護・管理（ガイドラインの内容等）の普及のため取組は、次のとおり。

（1）自治体職員を対象とした研修

前回、ガイドラインを改訂した平成 28 年度以降のニホンザルの保護・管理に係る研修の開催状況と研修内容は、表 3-1 のとおりである。

表 3-1 研修の開催状況と研修内容

年度	研修区分	研修内容
平成 28 年度	初級研修	講義：保護・管理計画の考え方と効果的な進め方（ニホンザル）
	上級研修	講義：特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン（ニホンザル編・平成 27 年度）の考え方と概要 講義：計画的な管理のための現況把握と管理の実施 講義：被害対策と併せた捕獲オプション（群れ捕獲、部分捕獲）の実施と成果 講義：捕獲オプション（選択捕獲）の実施と成果 講義：サル対策を効果的に進めるための行政（都府県・市町村）の役割 講義：市街地に出没したニホンザルへの対応（1）－対応の基本と事例の紹介－ 講義：市街地に出没したニホンザルへの対応（2）－麻醉銃対応の流れと準備
平成 29 年度	初級研修	講義：保護・管理計画の考え方と効果的な進め方（ニホンザル）
平成 30 年度	初級研修	講義：保護管理計画の考え方と効果的な進め方（ニホンザル）

	上級研修	講義：特定計画のモニタリングに基づいた評価の必要性
令和元年度	特定鳥獣（獣類）の保護管理に係る研修会	講義：モニタリング手法の選択と設計：ニホンザル編 事例紹介：神奈川県における被害対策の取組とサル管理
令和2年度	特定鳥獣（獣類）の保護管理に係る研修会（オンライン）	講義：ニホンザルの保護・管理の基本と出沒対応のための体制整備
令和3年度	特定鳥獣オンライン研修会	講義：ニホンザル保護・管理の基本と地域での対策推進
令和4年度	特定鳥獣オンライン研修会（基礎編）	講義：ニホンザル管理の基本—群れ管理と地域主体の被害対策—

※令和5年度においても、応用編にてニホンザルガイドラインのポイント、計画的な群れの個体数管理と地域主体の被害対策について研修実施。

（2）ニホンザル対策モデル事業

平成26～28年度に、各都府県の第二種特定鳥獣管理計画の策定の推進及び支援を行うことを目的に、加害群の特定や効果的な捕獲に向けたモデル事業を広島県と徳島県をモデル地域として実施した。

事業の成果物として、平成28年度に、ニホンザルの管理を効率的に推進するヒントとするため、モデル事業で得られた事例や結果を紹介する「ニホンザル対策モデル事業レポート」を作成し、都道府県に配布した。

（3）保護・管理レポート

前回、ガイドラインを改訂した平成28年度以降に発行した「ニホンザルの保護及び管理に関するレポート」（以下「保護・管理レポート」という。）の発行状況とテーマは、表3-2のとおりである。保護・管理レポートは、都道府県に配布した。

表3-2 保護・管理レポートの発行状況とテーマ

年度	テーマ
平成29年度	計画的な管理を実行するための各主体の役割分担と連携
平成30年度	ニホンザルの個体群管理手法（捕獲オプション）の効果的な実施

（4）ガイドライン概要版

前回、ガイドラインを改訂した平成 27 年度には、ガイドラインの内容を概説する概要版として、「特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン（平成 27 年度・ニホンザル編）概要版－ニホンザルの計画的な管理のために－（H28 年 3 月発行）」を発行し、都道府県に配布した。

3. 今後の対応について

ガイドライン改定版の内容、管理の考え方の普及をどのような方法で行うか。

（参考）想定される普及の方法

- 研修
- 保護・管理レポート
- 概要版（パンフレット）の作成
- 環境省からの通知
- その他